

## 巻頭言

### 「SBI 大学院大学紀要 第 7 号」の刊行にあたり

学長 北尾 吉孝

SBI 大学院大学は教育研究重視の姿勢を具体的に示すために 2013 年度より専任教員を中心とした執筆陣の研究論文集である「紀要」を刊行しています。本号はその第 7 号(2019 年度版)です。第 3 号からは、本学修士生の諸論文も掲載し、更に第 4 号からは年度ごとの統一テーマを設定し、今年度は「リーダーシップと人間学」といたしました。

リーダーとして大事なものは、如何なる大志を抱き如何に優秀な人を多く集わせて、彼らと共に自分がやるべきことを明確にし、そしてその志を共有化して行くというプロセスです。段階的に考えると、リーダーとは①先ず一つの志(理想を目指し到達しようとする強い意志)を描き、その志を共有して行く仲間達が存在して、②その共通目的の実現のために集った仲間達から、その能力や手腕あるいは人格等により指導者という形で仰がれ、③そして今度はその目的を成功裏に成し遂げるべく、目標達成に対する誰よりも強い意志と熱意を有し、④また更にその仲間達全てに対しても透徹した責任感と犠牲的精神といったものを持つようになる時、自他共に目的遂行のためのリーダーとして自覚し認識して行く、というふうにしてなるものだと考えています。従ってリーダーとして絶対に有らねばならぬは人間的魅力であります。与えられた境涯・境遇の中でリーダーになるという意志と自覚を持ち、リーダーに相応しい人物になるよう自分で自分を築いて行くしかないのであります。

「自分自身を鍛え築き上げて行くのは自分以外にない」という強い意志と覚悟を有し、仁・義・礼・智・信という五点で以て良き方向に自身を変えるべく必死に努力し続け、結果として人間力が鍛えられることになるのです。私淑する人物やその人の著作から虚心坦懐に教を乞うと共に、片方で毎日の社会生活の中で事上磨練しながら、その学びを実践して行くのです。先達より学んだ事柄を日常生活で日々知行合一的に練って行く中で初めて、人間力は醸成されて行くものだと思います。

世のため人のためと大志を有し起業する人、あるいは起業した人に伝えたいのは、棺桶に入るまで学を磨き続けねばならないということです。「知識の欠如」「実行力の欠如」「戦略の欠如」という「三無」の先に成功は有り得ませんし、成功する上で専門的な知識等が必要になるのは言うまでもありません。しかし、何よりも大事なものは人間学を学ぶことによって自らの身を修め、そして人間的魅力を高めて行くことではないかと思えます。曾子が「任重くして道遠し」(『論語』)と述べているように、人道を極めて多くの人を感化し、そして此の社会をより良くして行く責任というのは本当に重いものであります。

## 巻頭言

さて、本号では「リーダーシップと人間学」という統一テーマのもと、国内外の実践的な事例に基づく考察やリーダーシップと人間学を育む教育の在り方、中国古典の思想における位置付けなど、多岐にわたる観点で執筆された論文を収載しております。加えて、統一テーマに限定しない一般論文としまして、シリアルアントレプレナーや交渉学、法規制学に関する研究も収載しております。

経営専門職大学院である本学は 2008 年 4 月の開校以来、11 年半が経過し、修了生の数も累計で 243 名に達しました。本学の特徴はインターネットを活用した教育システムであること、経営学などの「実学」と並び、上記したような経営者の資質を磨くことを主眼とした「人間学」を学ぶ機会を提供していること、それらに加えて「アントレプレナー」（起業家）の育成を重視していること、の3つに要約でき、これらが他の経営系専門職大学院・ビジネススクールと比べて大きな優位性を本学に与えています。そして本学は「実践」を旨とする大学院であり、本学を巣立ち全国各地で活躍中の修了生も、それぞれの理想を掲げリーダーシップを発揮していることでしょう。

本紀要に収載している論文は、本学で教鞭をとる多様なキャリア・専門性を持つ教授陣や、幅広い分野で活躍している修了生による日々の研究や活動の成果として発信するものであり、本学の特徴の一端を示しております。本紀要は本学の研究・教育活動の重要な一環であり、本学の研究力と教育力の水準向上のために、来年度以降も紀要を刊行して行く所存です。

最後に、本紀要が本学外の多くの人々にも広く供覧され、そのお役に立てればと願う次第であります。